

## 再評価結果（平成16年度事業中止箇所）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課  
担当課長名：高松 泰

<b>事業名</b> 一般道道 夕張厚真線 <small>ゆうばりあつま</small>	<b>事業区分</b> 北海道	<b>事業主体</b> 国土交通省 北海道開発局	
<b>起終点</b> 自：北海道夕張市滝ノ上 <small>ゆうばり たきのうえ</small> 至：北海道勇払郡厚真町字高丘 <small>ゆうふつ あつま たかおか</small>		<b>延長</b> 17.5km	
<b>事業概要</b> ： 夕張厚真線は、夕張市から厚真町に至る延長約2.2kmの一般道道である。このうち夕張市滝ノ上から厚真町字高丘までの延長約1.8kmが開発道路に指定されている。本路線の整備により、夕張市と東胆振地域の短絡ルートを形成し、苫小牧港へのアクセス向上、農産品の流通支援、観光アクセスの向上等に寄与する。			
S60年度事業化	S - 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H元年度用地着手	H2年度工事着手
<b>全体事業費</b> 約160億円		<b>事業進捗率</b> 20%	<b>供用済延長</b> 5.3km
<b>計画交通量</b> 820台/日			
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 0.6 (残事業) 0.8	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 82/112億円 事業費：76/103億円 維持管理費：6/8億円	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 63/63億円 走行時間短縮便益：66/66億円 走行費用減少便益：-5/-5億円 交通事故減少便益：1/1億円
<b>基準年</b> 平成15年			
<b>感度分析の結果</b> 事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=0.6(交通量+10%) B/C=0.5(交通量-10%) 事業費変動：B/C=0.5(事業費+10%) B/C=0.6(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=0.5(事業期間+20%) B/C=0.6(事業期間-20%)			
<b>事業の効果等</b> ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における交通不能区間を解消する） ・物流効率化の支援（特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる）			
他3項目に該当			
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 沿線自治体からは、路線の整備要望が出されているが、事業の厳しい情勢に一定の理解が示されている。また、北海道からは「当路線の事業執行上の課題及び現在の事業進捗状況等を勘案すると事業の中止もやむを得ない」旨の意見が出されている。			
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 平成3年に国道274号石勝樹海ロードが開通。平成11年に北海道横断自動車道千歳恵庭JCT～夕張IC間が開通。平成15年度までに日高自動車道苫小牧東JCT～鶴川IC間が供用している。			
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 開発道路区間17.5kmの内5.3kmを北海道に引き継いでいる。			
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 残区間は、山間部の河川沿いルートとなり大規模構造物が多くなる他、沿線の山腹斜面には地すべり地形が随所に見られ、積雪により工事期間も限定される。これらの現地状況を勘案すると全線供用は最短でも平成20年代後半以降となることが予想される。			
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 1.5車線の整備や既存林道の活用等を行っても、他の路線に比べ走行速度が低下するため便益の増加は望めず、有効なネットワーク形成とはならない。			
<b>対応方針</b> 事業中止 今後、本路線周辺の道路ネットワーク機能の充実に係る検討を進める。			
<b>対応方針決定の理由</b> 事業の投資効果、事業の進捗の見込み、代替案立案の可能性及び関係地方公共団体等の意見を総合的に判断した。			
<b>事業概要図</b>			

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。